

おわりに

一昨年の東日本大震災、東京電力福島第一原子力発電所事故で被災された皆様に改めて心よりお見舞い申し上げます。

あれから2年の歳月が過ぎました。ゆっくりとでも前に進んでいる部分もありますが、遅々として進まない部分、未だ不透明なこと、時間の経過と共に様々な現実が目の前に繰り広げられています。

そして、浪江町商工会様、一部の会員企業様にご協力頂いているこの調査研究事業も2年目となりました。2年目に当って「事業を再開したいと願う事業者の方に対して道標となるようなものを提供できないだろうか」「事業を再開したものの、多種多様な困難に直面されている事業者の方を支えることはできないだろうか」、大きく捉えて2つの調査研究事業の目的を再確認しました。

一方で、アンケート調査やヒアリング調査を進める結果として、事業再開をあきらめる事業者様や、再開したものの先行きなど描けないという事業者様の存在など、多くの悲観的な事実遭遇するであろうこと。そして、我々の調査研究事業は果たして有益なものになるのであろうか。つまりは、そこに希望の光は見えるのだろうか。そのような不安があったのも否定できません。

果たして調査の結果、厳しい現実の中で「分散・分断」という現状の印象を強く感じました。避難先、事業再開先の分散、世代間の考え方のバラつき、警戒区域の再編の問題、町外コミュニティの先行き……。そこにかつて無い、様々な困難さが突きつけられています。

そのような現実に対し、いくつかの事業者の方々は逞しく立ち向かっておられます。行き届いていないとは言えないまでも、公的な支援策を有効に活用されている。多くの事業者の方が故郷「浪江町」への強い想いを胸に、時間が過ぎ、世の中からの風化という恐れがあるからこそ、強い想いを抱いて立ち向かわれている事業者の姿に心を打たれました。～Where there is a will, there is a way～意思のあるところに道は開ける。まさにその言葉を体現されている事業者の方々がいらっしゃいます。先行きが不透明であるからこそ「身軽」という切なくも逞しい経営姿勢も多く聞かれました。励ますはずの我々が励まされる思いあり、共に歩いていくことの大切さをかみ締めております。

本報告書が浪江町や相双地区の事業再開を目指している、若しくは、事業再開を果たしたものの困難に見舞われている事業者の方々、そして、復興に向け多くの分野で尽力されている皆様にとって、多小なりとも今後の活動の参考になれば幸いです。

最後になりますが、これまでの調査研究事業において、我々の趣旨をご理解いただき、多大な協力をいただいた原田会長をはじめとする浪江町商工会の皆様、そして、ヒアリングに応じていただいた会員企業の皆様をはじめ多くの方々にご協力いただきました。紙面を借りて改めて各位に心より御礼申し上げます。

福島県中小企業診断協会
調査研究事業プロジェクトチーム

小林 清和

平成24年度 マスターセンター補助事業
大震災に中小企業はどう向き合っていくか
～浪江町商工事業者の闘いの軌跡を辿る～Ⅱ
調査研究報告書
平成25年4月

発行日：平成25年4月 発行
発行者：社団法人 中小企業診断協会 福島県支部
〒960-8055 福島市野田町字高野9番12号
佐々木 譲司
TEL.024-559-2867
FAX.024-559-2867
印刷：株式会社 日進堂印刷所
〒960-2194 福島市庄野字柿場1-1
TEL.024-594-2211
FAX.024-594-2041
URL. <http://www.nisshindo.co.jp>

無断転載・無断複写複製(コピー)を禁じます。